

## 發 刊 の 辭

慘たる敗戦の結果、教育制度の根本的革新となり、多数の新制大学の創設をみた。これは、新しい日本の國是たる、平和を愛好する、民主的、自由な、文化の香り高い國家として、世界國際場裡に、再び雄々しく立上らんとする、強い國民的熱意の發露であると信ずる。この新日本建設の重責を担うに足る、有能な人材の養成を目的使命とする新制大学に於ては、既存の大学の欠陥を補い、人間性豊かな教養と、廣い視野のもとに立つ高い知性とを育成し、専門的、職業的知能に於ても、文化的教養に於ても、有能な人材の養成に努めるのは申すまでもないこと、更に進んで、獨創的研究の分野を開拓することの出来る基礎的訓練を施す必要がある。

教育と、研究とは、大学教育完遂上の重要な両面であつて、一方に偏しては大学の正しい目的使命の達成は出来ない。大学の教授は、一面、人間育成に力を注ぐ教育者であると共に、一面また、眞理の探求、學術の研究に秀でた学者でなくてはならぬと、いわれるわけはこゝにある。大学の紀要は、勿論大学の諸教育によるこの両面の研鑽の結果の收録に外ならない。かくして、この收録の刊行が學問上から直接我々の大學關係者を益すのみならず、廣く人類文化の向上發展に、貢獻となることは疑う余地のないところである。

更にまた、この紀要が生れるまでの間の各研究者の眞摯な研究態度や、熱意ある行動、絶えざる努力が、不知不識の裡に、必ずや、感受性に富む青年学徒の人格涵養の上に、大きな影響を及ぼさずにはおかないことを思えば、その人間教育上に贅す効果も、また偉大なものがあると信ずるのである。この意味から、文理学部教官諸氏の努力によつて、こゝに紀要の發刊を見るに至つたことは、誠に御同慶に堪えないと同時に、私は、戦後、而も創業時代の不便不自由を克服して、今日の成果を得られた各位の御勞苦に対し、心からなる敬意と感謝の意を表し、なお將來、たゆまざる研鑽を重ねて、益々教育界學術界への貢獻を期待し、念願して止まぬものである。

なお、私共のこの企について、常に、各方面の學識經驗者の方々から、有益な示唆、御指導が得られるならば、独り、私共の幸福に止まらないことと存じ、これを切に大方の識者各位に御願いたす次第である。